

一般社団法人 山形県言語聴覚士会

山形県言語聴覚士会の一般社団法人化にあたって

山形県言語聴覚士会 社会部 広報担当 千葉 寛之

当県士会は平成14年6月に会員数68名で発足し、今年で16年目を迎えました。現在会員は165名となり、現会長田口充で4代目となっております。

平成28年7月に総会を開き正式に法人化となったわけですが、役員の中で法人化の話が出たのは5年以上前になります。本腰を入れ準備したのは平成27年からですが、当初は右も左もわからない中、役員会で答えの出ない話し合いを重ねました。その後行政書士の方と話し合いを重ね、少しずつ形になってきたのを覚えております。当県士会は県の地域包括ケアシステムの推進にも積極的に参加しており、行政とやり取りをする機会が増えておりますが、「一般社団法人 山形県言語聴覚士会 事務局 御中」という葉書や封筒が届くと法人化した実感が湧き感慨深いものがあります。ちなみに、平成29年度の地域ケア会議への派遣回数は会員35名で163回の出席を予定しており、全市町村から依頼があったすべての会議に派遣しております。

平成28年10月29日に一般社団法人設立に伴い記念行事を開催いたしました。協会からは長谷川賢一副会長にもお越しいただき、祝辞を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。記念公演としまして、浜松リハビリテーション病院院長の藤島一郎先生をお招きし「摂食嚥下障害の歴史とup to date～言語聴覚士の役割を踏まえて～」



藤島先生による記念講演会

と題し、ご講演をいただきました。その後、式典・祝賀会を開催しました。風通しの良い県士会が我々のモットーですので敢えての(?)ブッフェ形式の食事とし、交流を深めることができました。遠方からお招きした来賓の先生も多数いらっしゃいましたので、県内産の日本酒、ワイン、ソフトドリンクや郷土料理である芋煮を堪能していただき「美味しい山形」をPRすることができました。

地域ケア会議、通いの場やインクルーシブ教育の推進など、県士会が担う役割は年々大きくなっておりますが、会員ひとり一人が協力し合い、意見を出し合い「地域に信頼される言語聴覚士会」となれるよう精進してまいります。



来賓の先生と会員による記念写真